

No.674 (改題634号)
2025年
10月8日(水)

新社会兵庫



週刊 新社会

発行所：新社会党
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三蔵工業ビル3F
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

違法だらけの斎藤知事は辞職を 県庁前ヒューマンチェーン第4波

県議会は再び不信任決議を

今年3月19日、斎藤知事が自ら設置した第三者委員会は斎藤知事の10件のパワハラと公益通報者保護法違反を認定した最終報告を発表。しかし、斎藤知事はその調査結果を認めず、今も知事の地位に居座り続け、県政の混乱は続いたまま。そうしたなか、定例9月県議会初日の9月18日、「違法だらけの斎藤元彦知事、即刻辞職を！」と、「兵庫県知事選挙を振り返る市民の会」が呼びかけた県庁前ヒューマンチェーンの第4波が県庁2号館の前で行われ、約100人の市民が参加した。



9月定例県議会の初日に斎藤知事に即刻辞職を求めて行動した市民＝9月18日、県庁2号館前

斎藤知事をめぐるのは、

この間、公益通報者保護法違反、公職選挙法違反、地方公務員法違反などの刑事告訴・告発が行われている。また、昨年11月の県知事選における公職選挙法違反（PR会社への報酬支払い）で告発した弁護士らがこの日までに、利害関係のあるPR会社の社長を選挙運動に誘導したとして、公職選挙法違反（利誘導など）容疑にも当たるとして神戸地検に追加告発したことも明らかになった。

この日、約100人の参加者は「斎藤知事に辞職を求めます」「9月県議会で斎藤知事不信任を決議してください！」などの横断幕やプラカードをかかげ、スピーチ、歌、コールなどを通して県職員や県会議員、通行者に訴えた。

一方、この日は、ヒューマンチェーンの直前に他の市民グループも県庁2号館の周囲をぐるぐる回る別のデモを行い、お互いにエール交換を行った。

イスラエルはジェノサイドをやめろ

隔週で続けるガザ停戦アピール行動

フォーラムひょうご

9月23日秋分の日、ようやく涼しくなったこの日の夕、「フォーラムひょうご」(フォーラム平和・人権・環境・ひょうご)が主催するガザ停戦アピール行動がJR元町駅前で行われた。毎月第2、第4火曜日に定例で続けられているもので、この日は約30人がスタンディングを行った。

殺が連日繰り返されていく。行動では、「直ちにガザへのジェノサイドをやめよ」「子どもを救え」「日本政府はイスラエル批判の声を上げよ」などと懸命なアピールが続いた。横断幕の文字を読み、中には親指を立てる人、小さく拍手する人、立ち止まって聞く人、写真を撮る人も多く、訴えの手応えが感じられた行動だった。

心なしか、いつも元町駅



広渡寺跡歴史公園

ひょうご 165
描き歩き

小野市役所の北1きほどの広渡町にユニークな廃寺跡公園がある。2000年に「国史跡広渡廃寺跡歴史公園」としてオープンした。2杉の広い段丘台地の一角に、シエラルミンとセラミック製の寺院が縮尺20分の1の大きさで細部まで丁寧に造り込まれて再現されている。50年ほど前から行われた発掘調査の結果、南大門、中門、東西2つの塔、金堂、講堂、回廊などの主要施設の位置や規模がほぼ解明され、それを精巧に屋外に造り、展示しているのが凄い。復元模型は、博物館などの屋内に展示されていることが多いが、ここではそれが屋外展示されていて、この部分を上手に切り取って写真にす

れば、本物の寺院と見紛うばかり。段丘下に併設されたガイダンスホールには、広渡廃寺関連のパネルや瓦などの出土品が展示されている。この寺の創建時期は、出土遺物から奈良時代中頃の7世紀後半頃とみられている。何度となく改修を重ねたが、鎌倉時代初頭に広渡廃寺を含む古来よりの9カ寺が大破壊を受け荒廃していたことが、ここから東2きほどにある国宝浄土寺の縁起に記されているそうだ。

東西約100m、南北約150mの規模の回廊が取り囲む奈良薬師寺式伽藍配置であったようだ。寺の記録も残っていないので、寺の名も不明で、地区名を冠して呼ばれている。(嶋谷)

承認を得て提出された百条委員会の報告書および県民らが設置した第三者委員会の報告書の内容が、いまだに斎藤知事に受け入れられていない」と指摘した上で、「兵庫県民の大半は、知事の態度に受け果てています。デマ、フェイクが吹き荒れた先の県知事選挙で、斎藤知事に投票した県民の多くも、今やその間違いに気づき、態度を変え始めています。兵庫県警・神戸地検も、斎藤知事に対する刑事告発を受理し、7月には神戸地検で長時間

に及ぶ斎藤知事の事情聴取がなされたと報道されています。貴会派が、多くの県民の思いに添え、兵庫県政の正常化に向けて、今9月県議会において、斎藤知事に対する不信任案を提出していただきたい」とある。だが、今のところ県議会の会派の足並みはそろっていない。(中村)



ヒューマンチェーンの前を通る別の市民グループによる県庁周回デモ＝9月18日、県庁2号館前



休日の夕方にもかかわらずガザ即時停戦のアピールを行ったフォーラムひょうご呼びかけのスタンディング＝9月23日、JR元町駅前

水脈

先日、これは面白い、と思えた学習の場があった。筆者が所属する党の支部は、

月1回の会議の前半を学習の場に充てる。これまでの学習テキストが終了したので、参院選後は、レポーターを決めて、テーマと資料の用意はレポーターに任せるという形式にしようとなった。その初回、レポーターのYさんは3種の資料を用意した。『世界』10月号の伊藤昌亮論文「参政党『真ん中』からの反革命」からの抜き書き、雨宮処凛さんの昨年の論考「なぜリベラルは『負ける』のかについて考えてみた」の抜粋、そして、「エンゲル係数」を取り上げた毎日新聞の連載エッセイの3種だ。3種は通底しているが、Yさんはこれらの資料をもとに、まるで「三題噺のように、なぜ参政党が大躍進したのか、なぜリベラル派が後退しているのかを考えると問題提起を行ったのだ。いずれも元資料は興味深く、通読する価値があるが、その学習会形式は面白く、いろいろな意見が出されて時間が早く過ぎた。そして、次回のレポーターは別の切り口から同じテーマを続けてみるといった▼参政党を批判するのは簡単だが、なぜ多くの支持を集めるのか、その支持基盤や支持理由をもっとシビアに検討してみ必要がある。

私の主張

山形・米沢で全国交流会

講演や分散会で“政治”を考える
新社会党青年学生委員会



兵庫からも3人が参加して先の参院選闘争などを振り返った＝9月13日、山形県米沢市

新社会党青年学生委員会は9月13、14日の両日、18人が参加した。第21回全国交流会を山形県米沢市で開き、全国から18人が参加した。交流会では、九里廣志

さん（学校法人九里学園理事長、九里学園高等学校校長）から「国際秩序と日本の役割 私たちが持つべき視点とは」と題した講演を受けた。九里さんは、「いろいろな国の人と交流を持ちお互いを理解し合えるようにすることが大事。また、命と人権を大切にすること。そして戦争をさせないこと。戦争は最大の人権侵害であり、戦争をさせないようにするのが政治だ」という趣旨を語った。講演後は分散会でお互いの職場報告を行い、職

「21世紀の国家論・帝国主義論」を考える

偶田聡一郎さんを講師に
社会主義ゼミナールin近畿

「21世紀の国家論・帝国主義論」をテーマにした「2025-12社会主義ゼミナールin近畿」が9月20日、偶田聡一郎さん（大阪経済大学専任講師）を講師に招いて国労大阪会館で開かれ、65人が参加した。偶田さんの講演は、①マルクス主義の国家論争をふりかえる、②帝国主義論の問題構成について、③現代のアメリカ帝国主義、あるいは米中対立などの地政学的対立をどう



マルクス主義の国家論争をふりかえりながら21世紀の国家論などを考えた＝9月20日、大阪市

■始まった労基法のちやぶ台返し議論

労働基準法のちやぶ台返しの議論が始まっている。労働基準関係法制研究会の報告書を受けて今年1月から始まった11回の労働政策審議会労働条件分科会議論から今夏に労基法などを見直す中間整理の報告書が予定されていた。9月4日に開催された同分科会でもその期待は裏切られた。これまで労働者、事業（場）、労使コミュニケーション、労働時間規制のあり方について議論がされてきたが、労使コミュニケーションや労働時間規制では労使間で大きく意見が対立しているからだ。労基法などの何がかわろうとしているのか。最初に労働法とは何かという「基本のキ」について復習したい。

■そもそも労働法とは何なのか

大阪市立大学の西谷敏名教授が著した『労働法』（日本評論社）の冒頭に労働法の理念とその実現方法として使用者（資本）の単独決定を規制するポイントが明記されている。労働法とは労働者として人間の尊厳（憲法13条）と生存権（同25条）を保障できるように使用者が賃金・労働条件を単独決定することを規制する

労働法改悪の動きを考える 危険な意図の「労使コミニュ

議論から言えることは、労基法などの強行規定を適用除外（デロゲーション）でできる仕組みの創設だけではなく、労働基本権が保障された労働組合が排除されるのではないかと危惧する。

■労働者の生存権が危なくなる

今回の議論は、労基法、最賃法、労安法など最低基準関係法制の見直しである。労働者の生存権に関わる重大な問題といえる。労基研報告書では「労使の合意等の一定の手続きの下に個別の企業、事業場、労働者の実情に

ものである。労働者は弱く、使用者は強いという労使関係では労働者の生存権は維持できないというのが労働法の出発点である。労働者保護法（労働基準法）は、罰則などによる最低基準という枠付けにより使用者の単独決定を規制するもの（強行規定）である。労働組合法は、積極的に団結権保障を行い、団体交渉を通して締結した労働協約により使用者の単独決定を規制するものである。このような根本原則を念頭に、今回の労基法などの改悪議論を考察しよう。現在までの

合わせて法定基準の調整・代替を法所定要件の下で可能とすることが、今後の労働基準法の検討にあたっては重要である」と小難しい理屈が明示されている。端的に言えば、過半数労働組合のない場合は過半数代表者と使用者が情報共有と労使コミュニケーションにより締結した労使協定が法定最低基準を下回っていても違法とせず、それが労働条件となる。例えば、倒産しかねない危機的な会社経営の使用者による全社員の時給800円の提案が、倒産を避けたいと

考える過半数代表者と合意されれば、兵庫の最低賃金1052円を下回っても違法とはならない。これでは労働者の生存権を守ることができない。

■労働組合は会社の片隅に追いやられる

労働側委員は、集団的労使関係の担い手は労働組合であり、労使対等ではない過半数代表制の導入ではなく、労組法の団結権を基礎とした労使対等の労働組合の強化こそが重要であると力説する。使用者側委員は、労働組合は否定しないが、組織率が2割に満たない

日々変化していく社会・政治情勢の中で課題は多いが、自分たちの「ぶれない主張」を展開

ちが誰に何を伝えるか？、そのことを改めて考える交流会となった。

(I)

なかつた過半数労働組合がない場合は使用者と過半数代表者との情報共有と労使コミュニケーションを通じた労使協定によるデロゲーションの仕組みは必要だと力説している。

最後に、憲法的価値を大切に労働法学者の西谷労働法の「基本のキ」に立ち返り、労働法とは資本の支配や暴走により労働者の尊厳や生存権が脅かされることがないよう資本の単独決定を制限するものであると再確認しよう。

■労働組合を強化する道を歩む

我々は労使コミュニケーションがすべての労働者を支配する道具であると判断し、これに反対する労働組合、労働者による大衆運動を構築するとともに、団結権の行使を旨とする労使対等の労働組合を強化する道をいくから強しくとも力強く進むことに専念しよう。

菊地恵之（ひょうごユニオン事務局次長）

インフォメーション

■第28回回く女性との交流集会 ジェンダーや雇用形態による格差を変えていくためにー職場からできること

◎10月12日（日）13時30分～16時30分◎神戸市・兵庫区文化センター講習室（JR兵庫駅北側すぐ）◎講演「なりたい自分になるためにー職場を変えるー自分を変えるー」大槻奈巳さん（聖心女子大学教授）や職場交流など◎参加費1000円（資料代）◎主催11働く女性との交流会実行委員会078・360・4674

③は、時間切れで省略。

（佐野修吉）

■ガザ即時停戦アピール・スタンディング

◎10月14日（火）18時～19時◎JR元町駅東口・南広場◎呼びかけ11フォーラムひょうご

■ガザ即時停戦アピール・デモ行進

◎10月18日（土）15時～16時◎三宮・東遊園地南・花時計集合、JR元町駅近くまでデモ行進◎呼びかけ11市民デモHYOGO

■10・19祝園全国集会

◎10月19日（日）11時～16時15分◎けいはんな記念公園・芝生広場（京都府精華町）◎第一部11祝園ピース・ピースフェス

（担当・中村）

須磨区で防空壕跡などの戦跡巡り

戦跡ガイド養成講座の1プログラム
神戸空襲を記録する会



今も須磨区に残る戦時の防空壕跡のひとつ
＝9月21日、神戸市須磨区

神戸空襲を記録する会が主催する「戦跡ガイド養成講座」の一環として9月21日、須磨区の戦跡巡りが行われた。20人あまりが参加して主には防空壕跡を訪ねた。

が1930年代に作った頑丈な防空壕である。須磨区にはかつて妙法寺秋の寺に防空壕が残されていたが、2024年の斜面の防災工事の際に参道が整備されてなくなった。今も見る事ができるのは、勝福寺裏山の防空壕だ。こも山崩れで防空壕が埋められ、一ただけ残されている。かつての神戸の総合商社・鈴木商店の鈴木よねさんの邸宅跡のトンネルも、1945年6月5日の空襲では防空壕代わりに使われたことが「神戸

ンションに変わっている。若木町の原爆模擬爆弾投下地点も通ったが、話を聞かなければ分からないところだ。

須磨区は、空襲による全焼家屋が1万3639棟、死者912人と神戸市史には記録されている。空襲で焼けた木や空襲の

秋季恒例の「平和を考える集い」

播磨臨海地域道路計画の愚策を批判・抗議

平和憲法を守る高砂市民の会

平和憲法を守る高砂市民の会の秋恒例の学習会「平和を考える集い」が9月21日、同市内で催され約30人が集まった。

第一部はDVD「ヒロシマ 世界を動かした二

人の少女」(NHK「映像の世紀」の録画)を観て、原爆症を発症しながら生きる願いを込めて折り鶴を折り続けた「折り鶴の少女」佐々木禎子さんとICAN活動でノーベル

平和賞を受賞したサローム節子さんの2人の願いと闘いから、被爆80年の今年、核兵器廃絶のために私たちにできること、しなければならぬことを考えた。

第二部は、この地で住民を無視し、企業のために巨額な税金をつぎ込んで建設しようとしている「播磨臨海地域道路」

(嶋谷)

お礼 党支援カンパのご協力 ありがとうございます

厳しい党の財政事情のなかで、過般、「党支援カンパ」のお願いをしたところ、多くの方からカンパを頂戴致しました。本紙面を借りて改めて御礼

新社会党兵庫本部

に、労働相談や団体交渉のスタッフの養成をめざして明石地労協人権平和センターと共催して、年4回、スタッフセミナーを開催してきた。特定社会保険労務士の

スタッフセミナーで育児・介護休業法を学ぶ

妊娠・出産等の申出時と子が3歳になる

が、本当に実現されるのか注意深く見守る必要がある。

労働者に関する制度全般を理解することは大変だが、労働者を取り巻く環境の変化はひじょうに大きく、引き続きユニオンとしても学習活動を続けていきたいと思っている。

宮本誠之(あかし地域ユニオン副委員長)

地域ユニオン あかしあれこれ

あかし地域ユニオンでは、労働法や社会保険制度の学習を深めるとも

方々講師を迎え、毎回10人程度であるが、8年以上継続して取り組んでいる。今年3月には、2025年4月と10月に施行

た経験がある。法律では、また、労働相談では、

は産前産後休暇を所得して一時帰国し、再入国して働くことを確認することができた。

にアドバイスし、一時は不給付とされた給付金が支給された事例など、産前産後休暇や育児休業の取得についてアドバイス

の申し出時と子が3歳になる前の個別の意向聴取・配慮など事業主に細かく義務づけがなされるなど、労働者にとってはいへん意義のある制度である

やっぱり美味しい、篠山のお米です。

お米の値段が上がり続けた1年でした。高止まりですが、少し落ち着いてきたかもしれません。

新米をお届けしています。お客様からは、「やっぱり美味しい!」の声をいただいています。でかんしょ米、ささや米ともに、味は折り紙付きの地元兵庫県・篠山産のこしひかりです。

これまで税込み価格でご案内してきましたが、米の価格については一般商店やスーパーと同様の表示にしました。() 内が消費税を含む金額です。



でかんしょ米	5 ^キ □	4,630円	(消費税込 5,000円)
でかんしょ米	3 ^キ □	2,778円	(消費税込 3,000円)
ささや米	5 ^キ □	4,630円	(消費税込 5,000円)
ささや米・玄米	5 ^キ □	4,445円	(消費税込 4,800円)

ぴいぷるは、農業者への戸別所得補償と、食品への消費税廃止・減税など消費者の負担軽減を求めます。

(有)ぴいぷる

電話/ファックス 078(531)0135



おんなの目

それは2022年7月の参議院選挙の時だった。5人、6人の仲間と共に、私は姫路駅前で民主党の候補として立候補している新社会党のビラを配っていた。他にも同様にビラを配っている7、8人のグループがいた。参政党だった。こちらが多い。

思い思いの好き勝手なことを喋っていた。ぶっ飛んだ内容でも馬鹿にされることなく、参加している人はありのままの自分を受け入れてくれる政党と想ったであろう。

その参政党が、あの同病相憐れんだ参政党が、2025年の参議院選挙で大躍進した。新社会党の候補者は6千票も減らしたのに、何故だ。参政党は国会議員を増やすた

私の心の奥底で張り合う気持ちがあった。街ゆく人は無関心でビラの受け取りは悪かった。横目で見てみると参政党も悪かった。少し安堵。そのうち、路上にたむろする人が増え自民党の街宣車がやって来た。後に万博大臣になる医師で二世議員の候補者だ。本人はいなかったが、動員があった。かたがた、参政党の「自民党が羨ましい」と等と参政党の人と同病相憐れんで、話した。その頃、参政党はワクチンや農業、食品添加物に反対し有機農業を推奨する政党だと私は勝手に思っていた。今まで政治に無関心だった子育て世代がコロナのどさくさや食育で不安になり、フワッと集まったイメージだった。党首の神谷宗幣もホリエモンや前澤友作のようなIT長者で、道楽で政治をやっていると思っていた。そしてテレビで見た参政党の集会では、物事を深く考えたこともなさそうな喋りの下手な人にもマイクが回り、

参政党と新社会党

め、王道を行っていた。彼らは地道に支持を広げ、着実に地方議員を増やした。その数は150議席になると言う。だが、参政党の実態は、エコロジストの政党ではなく、ヒトラーもびっくりの排外主義の極右ポピュリスト政党だった。党首の神谷はIT長者でも何でもなく元自民党市議で日本会議にも関係があり、彼らが掲げる憲法



案は、大日本帝国憲法の方がまだ文明開化していると言っているのだから酷い代物だ。支持者の中には依然として、エコロジストの党と想っている人がいるのか。それとも、有機農業のためなら人権無視や靖国参拝も良いではないかと思っているのか。同じ右翼なら金にまみれた2世、3世の自民党安倍派よりマシと思ったか。世の中は、いろいろな要素が複雑に絡み合い時代の空気感のようなものが出来上がり、それが何となく正しく思えて大衆を吸って、ネットウヨやトンデモ右派が手を振って闊歩し、参政党は追い風に乗った。

シネマランド

子ども同士のリアルな人間ドラマを描く完全オリジナルストーリー。中心に描かれるのは、上田唯士、小学4年生。おながが空いたらごはんを食べる、いたってふつうの男の子。最近、同じクラスの三宅心愛が気になる。環境問題に高い意識を持ち、大人に

ふしうの子ども

本棚

『ポピュリズムの仕掛人』ジュリアーノ・ダエンポリ著／林昌宏訳／白水社／2200円＋税

「外国人問題」を争点化した極右政党の躍進が日本においても脅威となってきた。フェイクニュースによる煽動が瞬く間に広がる。インターネットの暗部が現実の社会に溢れ出し、議会制民主主義は脆弱性をさらけ出している。

本書『ポピュリズムの仕掛人』は、論理的よりも直感的にと言えるが、今現在の政治を良く捉えている。原著は2019年に書かれたもので、ちょうどトランプが2期目の選挙に負けたころだ。すでに世界ではポピュリズム政治、デマと煽動とSNSのアルゴリズムを利用した政治が破壊的な影響を与えていた。「移民政策は悪だ。メリットは一切ない。(……)無秩序と危険をもたらすだけだから

だ。(……)われわれは、異なる文化遺産を持つ少数派がわれわれの国で暮らすことを望まない」。これは、ハンガリーのオルバーン首相が2015年に言ったことである。このあと、「ハンガリーはハンガリー人の国である」と続くが、日本に置き換えるなら、神谷

SNS時代の政治を考える

宗幣が言っていたとしても違和感のないセリフだろう。この頃のハンガリーの外国人の比率は1.4%にすぎなかった。2016年にEUが1249人の移民をハンガリーに割り当てた際には、オルバーンはこの賛否を問う国民投票を行い、ハンガリー中に「移民の流入により、婦女暴行が増加」というポスターを貼ったという。

本書は「ポピュリズムの仕掛人」というタイトルだが、原著では「混沌(カオス)の技術者」である。流動化する政治基盤、異なった振る舞いをする個々に別々の「現実」を構築していくような政治。カオスからアルゴリズムでパターンを抽出する政治技術(本書では「量子政治学」と名づけている)がSNS時代の政治であるのだ。

「従来の民主主義では求心力が働く傾向があった。つまり政治の中心を制する者が勝利を収めたのだ。(……)新たな世界では政治は遠心力になる。最小公倍数で有権者を囲い込むのではなく、できるだけ多くの集団の感情に働きかけ、燃え上がった集団をこっそりとつなぎ合わせる事が重要になった」。

矛盾や寄せ集めの政策、非論理的主張こそが現代的な政治である。それらは驚くほど普及したスマートフォン、SNSといった物質的基盤によって可能になったのだ。そもそも、一国レベルのコミュニケーションは想像的なものでしかない。これまでは、マスコミ

相互に矛盾する支離滅裂な政策の羅列、減税ポピュリズムと公共サービスの拡充、移民締め出しと経済成長、軍事費増大と歳出削減などを同時に平然と主張するポピュリズムの時代において、政治的左派にとっては、たんに時流に乗り左派ポピュリズムを生み出すことが解決策ではないだろう。(一ノ瀬剛)

ミュニケーションを新聞や出版、ラジオやテレビなどが寡占してきた。新聞、雑誌のような少数の職業的ジャーナリストによって主導されたマスコミュニケーションが「公論」を形づけていたが、SNSによって取って代わられることで、虚偽も事実も等価に流通し、アルゴリズムにより凝固するような政治議論とそれに応じた議会政治を生み出していく。

本書は、ステイプ・バノンをはじめとする「混沌の技術者」の列伝としても読める。現代政治のトリックスターとして振る舞う指南書として読むことも、著者が意図したことではないだろうが、可能であるし、ポピュリストには現にそう読まれているのではないだろうか。

も臆せず声を挙げる彼女に近づこうと頑張る唯士。「地球温暖化は大人のせいだ」といった心愛の作文をきっかけに、物語は動き出す。唯士が心愛の気を引こうとして環境問題に興味があるフリをする。騒ぎのタネを嗅ぎ付けた同じクラスの三宅心愛、橋本陽斗が事を起こせとけしかける。心愛はそんな陽斗に惹かれていて、3人が始めた「環境問題」は、思わぬ方向に転がり出して――。

夏休み近く、空き家と思しき家を秘密基地として、3人の手に負えない事態とな

ってしまった。

急進的な原理主義者としてテロリズム発生の縮図

る扇動家がそろって活動が過激化するの、まるでテロリズム発生の縮図

のようだ。終盤の、子どもたちの親が顔をそろえた場面は、この映画のク



ライマックスとも言えるシーンだ。3人の親は、それぞれ我が子がかしたことを三者三様に受け止める。その親の態度も社会の縮図を表わしているようで、考えさせられた。

子どもが主人公でありながら、その子どもたちがこれまでの映画やドラマに登場するようないわゆる無邪気で純粋といった作られたイメージではない、どこにでもいるような自然体の子どもの姿を描写している映像は、観る者を明らかにさせてくれる。子ども映画の新しい境地を開いたような作品だ。(直)

監督 川口松太郎 2022年 日本/96分

生き生きとした子どもたちの人間ドラマ